

## 貸切バス

2021. 12. 14

野田中学校の近くに、貸切バスN会社がある。以前から、その存在は知っていた。

息子と娘がまだ小学生の頃のことである。クラブチームで二人ともソフトテニスをやっていた。年に数回ほど、大会で遠くに行くことがあった。その際に、貸切バスをチャーターすることがあった。お世話になっていたのがN社だった。

そのクラブチームの事務局をやるようになり、いつだったかN社の事務所に出向いたことがあった。それで知っているのである。その時点では、自分が数年後、野田中学校に勤務するようになるとは、もちろん考えてはいない。

貸切バスの書き入れ時は、年に何度かあることと思う。6月の支部中体連総合大会や9月の支部中体連新人大会もそうであろう。本校では、いつもN社のお世話になっている。市内の中学校が、一斉にバスを手配しているはずである。果たして、台数が間に合うのだろうか心配になる。

すると、本校には、N社のバス以外にも、会津や米沢からもバスがくる。こうやって、やりくりをしていただいているのだと知った。ありがたい。

毎朝、7時20分頃から、学校の入り口に立っていると、N社のバスが目の前を通っていく日がある。バスのフロントガラスには、〇〇小学校、〇〇中学校という表示が見える。バスの運転手さんに会釈をする。運転手さんも返してくれる。N社の運転手さんは、みんなそうである。

10月上旬から11月中は、目の前をN社のバスが通り過ぎる日が多かったように思う。コロナの状況が落ち着いてきたからであろう。私の記憶では、雨の日にバスが通ったことは一度もない。逆に快晴のような青空が多かった。校外学習や修学旅行は、天気が命である。天候に恵まれた学校が多いということだろう。それでなくても、多くの制限の中で実施しているのである。せめてお天気ぐらいはと願ってしまう。

長引くコロナ禍は、バス会社に多大な影響を与えていることだろう。本校でも、校外学習と修学旅行を9月から10月に延期することにした。日程を決めようにも、バスの手配が難しいとのことだった。それだけ、10月と11月に集中したということである。

毎朝のように、目の前をN社のバスが通っていくことは嬉しいことである。「お天気がよくてよかったですね。今日はどこに行くんですか。楽しい1日にしてください」誰に言っているわけではないが、そんなことを思ってしまう。

貸切バスが、それぞれの学校に手配されるということは、行事が行われるということである。そのことの意義は大きい。出発の際には、子どもたちは、自分たちの乗るバスを見て、何だかうれしそうである。自然と笑顔になる。そして、子どもたちは、楽しく大切な思い出をバスに乗って持ち帰ってくる。貸切バスには、子どもたちを笑顔にする力がある。